



農家組合員の意思反映へ

生産組織31組織とJA役職員が意見交換

JAは9月から10月にかけて、イチゴやワサビ、柑橘^{かんきつ}など主品目を中心に、31の生産組織とJA役職員との意見交換会を8地区で開きました。

9月1日には伊豆の国苺委員会と意見交換を行い、飯田寿夫委員長ら代表者と高木力常務らが出席。経営改善対策などの要望が寄せられました。生産現場の声をJA事業に反映させ、生産者の所得向上や産地の維持・拡大につなげていきます。



経営改善対策などを要請する飯田委員長



知識向上と資産運用力の強化へ

青壮年部向け資産形成セミナー初開催

JAは本年度から、青壮年部向けの資産形成セミナーを開き、部員の知識向上と資産運用能力の強化を図っています。

9月から11月にかけて8地区で行い、計80人が参加しました。金融相談課職員が講師となり、農業経営に必要な資産管理の基本から将来を見据えたライフプランの考え方、iDeCoやNISAなどを活用した資産形成の方法まで幅広く解説しました。



資産形成の必要性を学ぶ青壮年部員



役職員と家族が交通安全を誓う

管内警察署に交通安全宣言書を提出

JAは秋の交通安全運動に合わせ管内警察署に交通安全宣言書を提出しました。JAと子会社の役職員・社員とその家族2,486世帯6,418人が署名し、安全で快適な交通社会づくりを誓いました。

9月25日には梶穀組合長が沼津警察署を訪れ、田中尉公署長に役職員の宣言書を手渡しました。梶組合長は「職員の車の運転は業務上必須。日頃から注意していきたい」と話しました。



梶組合長(左)が田中署長に宣言書を提出



静岡茶講座で児童の愛飲促進

お茶の歴史や文化を学ぶ

JAではお茶の愛飲習慣の定着や郷土への理解を深めることを目的に10月から1月にかけて、各地区の職員が地元の小・中学校と特別支援学校を訪れ、「静岡茶講座」を開いています。

10月16日には沼津市立大岡小学校3年生の児童70人に栽培の歴史や品種、急須を使ったお茶の入れ方を説明。児童は「急須で入れるお茶は味が全然違う。何杯でも飲みたい」と話しました。



職員(左)から急須でのお茶の入れ方を教わる児童



JAふじ伊豆はSDGs「1～17の目標」につながる取り組みを行っています。

各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

ワサビ・イチゴで高温対策試験

品質維持と省力化へ

JAは生産者の農業所得向上を目指し、品目別振興計画を策定して栽培指導や販路拡大などに力を入れています。本年度、主品目のワサビとイチゴでは高温対策試験に取り組んでいます。

ワサビでは、赤外線吸収ネット「ダイオネオシェード清冷」の検証試験を始めました。同資材は特殊熱線吸収剤により熱の原因となる赤外線を吸収しつつ、光合成に必要な光を透過するのが特徴です。近年の高温化により、ワサビの生育障害・出荷量減少が深刻化しているため、同資材を用いて高温対策効果を期待します。今後定期的に生育状況などを測定し、従来の寒冷紗などの効果と比較検証していきます。

イチゴでは、ビニールハウス屋根へのドローンを活用した遮光剤散布試験を進め、品質維持と省力化を目指しています。猛暑の影響で苗づくりが難しくなっていることや、花芽分化の遅れが生じ、収穫開始時期も遅れるなどの影響がみられています。遮光剤散布で、ハウス内の温度上昇を抑制し、ハウスの地温を下げて定植後の苗の活着や根張り促進、障害果の回避、2番果の花芽分化の遅れを防ぐなどの効果が期待できます。さらに、ドローン業者への委託で作業の省力化と安全性、正確性にもつなげます。



赤外線吸収ネットの下の気温などを確認する生産者ら



ドローンでの遮光剤散布試験

年金友の会イベント大盛況

丘みどりコンサートに6,122人



庄巻の歌声で会場を魅了する丘さん(中央)

JAは、令和7年度年金友の会のメインイベントで「丘みどりコンサート2025」を開催しました。9月23日の富士会場を皮切りに、11月13日まで7会場で開催。JAで年金受給、受け取り予約の申し込みをいただいているお客さまを対象に、合計6,122人が来場しました。

丘さんは演歌だけでなく、民謡や昭和歌謡、ダンスなども披露。豪華な演出と多くの観客を魅了する歌声で大盛況でした。

12月15日から19日までJA支店で年金感謝ウィークを行います。詳しくは21ページをご覧ください。皆さまのご来店をお待ちしております。





生産技術と品質の向上へ

特産根付きシキミの園地共進会開催

富士地区しきみ部会は10月24日、シキミの園地共進会を行いました。市場関係者やJA、県の職員が審査員となり、部員21人と12の園地を巡って栽培状況や管理状況を確認しました。

審査の結果、2年生の部では秋山浩樹さん、3年生の部では高橋寿和さんが最優秀賞に選ばれました。「富士の根付きシキミ」は艶やボリュームがあり樹姿が美しく、市場で高い評価を得ています。



静岡・東京・大阪など日本各地の市場関係者らが審査

富士宮市産米を皇室へ献上

14年ぶりの拝命 酷暑に耐え実り届ける

新嘗祭献穀事業で、富士宮市産「コシヒカリ」が静岡県を代表して皇室へ献上されました。

献穀者の望月英敏さん(う宮米生産販売協議会員)の水田で、5月に御田植祭、9月に抜穂祭が執り行われました。収穫した米は11月の新嘗祭献穀献納式で今上天皇に献上。望月さんは「酷暑の中、立派に実ってくれた。富士山麓の米を献上でき感謝と幸せを感じる」と喜びを語りました。



抜穂祭で実りを喜ぶ望月さんご家族



生産者の要望に応え製茶工場稼働

秋冬番茶では7年ぶり

なんすん地区製茶工場は、市場での荒茶不足に伴う二番茶以降の価格高騰から、生産者の希望を募り、7年ぶりに秋冬番茶の製茶加工を行いました。完成した荒茶約3トンを静岡茶市場に出荷しました。

同市場では今年から入札制度が始まり、10月8日の入札取引全体では、なんすん地区出荷の煎茶が当日最高価格、前年の約4倍で落札されました。



茶葉の仕上がりを確かめるJA職員



サツマイモの加工始まる

さまざまな楽しみ方で味わって

御殿場・小山さつまいも加工品生産組合は10月下旬、令和7年産の焼き芋・干し芋の生産開始に向けて共同でサツマイモの集荷を行いました。

本年度は11月下旬から焼き芋を14トン、12月上旬から干し芋を45トン出荷予定です。1月中旬には、(株)FUJI PREMIUM BREWINGから、サツマイモの加工で出た切れ端などを活用したビールが新発売されます。



JA集荷場にサツマイモを持ち込む生産者



カーネーション産地間の情報交換

高温対策やスマート農業を視察

河津花卉園芸組合は10月1日、兵庫県淡路島のカーネーション農家の視察を行いました。記録的猛暑の影響で生育不良が課題となる中、他産地の高温対策や先端の栽培技術を学ぶことを目的に行ったものです。

ハウス内の水はけを良くする暗渠排水や自走式防除機を利用して効率化を図る農業技術を見学した後、産地間の情報交換を行いました。



淡路島の花弁栽培の先端技術を学ぶ生産者



暑さに強い水稻品種導入へ

「伊豆の恵」耐暑品種試食会を開く

修善寺営農経済センターは本年度、減農薬・減化学肥料の特別栽培米「伊豆の恵」の耐暑品種導入に向け、伊豆市と連携し検討を進めています。

「にじのきらめき」、「歓喜の風」を伊豆市内で試験栽培し、9月下旬に試食会を開催。関係者が耐暑品種と現行品種を食べ比べ、耐暑品種の食味評価は良好な結果となりました。今後栽培試験と検討を進め、令和9年度の本格導入を目指します。



JAや市、関係者が米の甘みや粘り、香りなどを比較



「三島馬鈴薯」を動画でPR

市内外に魅力を広く発信

三島馬鈴薯部会の平野光直さんとハロー!プロジェクト所属のアイドルグループ「BEYOOOOONDS」の高瀬くるみさんが、「三島馬鈴薯」をPRする動画に出演しています。

動画は、3月から三島市野菜アンバサダーに就任した高瀬さんが、平野さんのほ場で収穫体験を行い、栽培のこだわりなどを談話。同市の公式YouTubeで来年3月まで公開中です。



動画の完成を豊岡武士三島市長(左)に報告する高瀬さん(中央)と柿島徹三島函南地区本部長(右)



伊東市産キウイフルーツが旬

袋掛け栽培で高品質化を図る

あいら伊豆キウイフルーツ部会では、今期も10月からキウイフルーツの出荷が始まりました。同部会では一つ一つ丁寧に袋掛けをして栽培し、日焼けが少ない高品質な果実の生産に努めています。

12月は甘みと酸味のバランスが絶妙な「東京ゴールド」、2月からはグリーン色で定番の「ヘイワード」をい湯っこ市場や管内のファーマーズマーケットで販売します。



一つ一つ袋掛けをして栽培するキウイフルーツ